令和５年度第１回　小松市地域公共交通活性化協議会会議録

○日　時　：　令和５年６月 30 日（金）10 時 00 分～11 時 05 分

○場　所　：　小松市役所７階　701・702 会議室

○出席者　：

区分	職名	氏名	備考	出欠
住民又は 利用者の代表	小松商工会議所 空港・都市政策委員会委員長	今出　真稔	代理	○
	小松市町内会連合会会計	北川　潔	監事	○
	小松市老人クラブ連合会副会長	下中　孝敏		○
	小松市校下女性協議会会長	久保　由味子		○
	加賀地区高等学校校長会	源　義則		○
	小松市障害者自立支援協議会事務局	森田　敏裕		○
国及び県の関係 行政機関の職員	国土交通省北陸信越運輸局 交通企画課長	玉巻　史成		×
	国土交通省北陸信越運輸局 石川運輸支局　首席運輸企画専門官	高橋　岳大		○
	石川県企画振興部新幹線・ 交通対策監室　交通政策課主幹	石黒　裕介	代理	○
	石川県南加賀土木総合事務所維持管理課長	曽宇谷　憲一		○
	石川県小松警察署　交通課長	西尾　恵和		○
旅客自動車運送 事業者及びその 関係団体の職員	北鉄加賀バス㈱代表取締役	新谷　良二		○
	北鉄白山バス㈱取締役社長	松田　隆一		○
	日本海観光バス㈱総務部長	西出　揮一郎		○
	小松地区タクシー協会会長	道端　隆一		○
旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	北陸鉄道労働組合北鉄加賀バス小松職場委員	植村　猛		○
市職員	小松市副市長	越田　幸宏	会長	○
	小松市都市創造部長	西村　章	監事	○
	小松市教育委員会教育次長	林　政憲		○
市長が必要と 認める者	公立小松大学教授	中子　富貴子	副会長	×
	西日本旅客鉄道㈱金沢支社交通企画室長	鹿野　剛史		○
	日野自動車㈱新事業企画部＆経営企画部	松山　耕輔		×
	石川県レンタカー協会 常務理事兼事務局長	野村　光洋		○
	(一社)こまつ観光物産ネットワーク 事務局長	松本　勝典		○

○会議次第

１．開会挨拶　　会長　越田　幸宏

２．協議事項

（１）木場潟線のバス停移設及びルート変更について

（２）小松市地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

（３）小松市地域公共交通活性化協議会規約の改正について

３．報告事項

（１）令和５年度のスケジュールについて

（２）こまつ地域交通プランの進捗について

（３）駅・空港間の自動運転バスの運行について

【会議録】

１．開会挨拶

（副市長　越田会長）

○　新幹線開業もあと９ヶ月となり、新たな時代を迎えるにあたり、地域公共交通に求められる役割もますます大きくなってきていると感じる。

○　地域住民の生活の足の確保は勿論のこと、来訪者の移動の利便性を向上させ交流を活性化させることが求められており、路線バスだけではなくタクシーやレンタカー、シェアサイクル、IR も含めた様々な交通手段の組合せが必要となる。

○ 本年 3 月にシェアサイクルの導入を行った。

○ 自動運転バスは、来年 3 月の新幹線開業に合わせて、未来型の交通システムとして導入し、今年度の長期間の試験走行を経て、3 月から定常運行をする。我が国でも先進的な自動運転プロジェクトの一つであり、関係機関との連携のもとに着実に進めていきたい。

（事務局 本谷部長）

○ 24 名中 20 名の委員が出席しており、本日の会議は成立する。

○ 規約に基づき、会長が議長となり進行を行う。

２．協議事項

(1) 木場潟線のバス停移設及びルート変更について

資料に基づき、事務局（津田課長）より説明

【質疑応答】

意見質問なし。

【承認】

意見質問はなく、承認された。

(2) 小松市地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

資料に基づき、事務局（津田課長）より説明

【質疑応答】

（副市長　越田会長）

○　交通空白地帯に関連した国の補助金の金額はどれくらいか。

→（事務局　津田課長）

○　毎年変動するが、昨年度の額は 150 万円程度となっている。

【承認】

他に意見質問はなく、承認された。

(3) 小松市地域公共交通活性化協議会規約の改正について

資料に基づき、事務局（津田課長）より説明

【質疑応答】

意見質問なし。

【承認】

意見質問はなく、承認された。

３．報告事項

(1) 令和５年度のスケジュールについて

(2) こまつ地域交通プランの進捗について

(3) 駅・空港間の自動運転バスの運行について

資料に基づき、一括して事務局（津田課長）より一括して説明

【質疑応答】

（市町内会連合会　北川委員）

○　目標に対して、現状の状態は厳しいと感じた。私もコミュニティバスに乗ったことがない。市民が皆乗ることを考えなければならない。駅・空港間のバスができても同じことになると思う。

○　体験乗車の話があったが、市民がどうしたら乗るのかを考えることが大切である。

○　子どもが乗る機会をつくれば大人も乗ることになる。

○　バスが良いものかどうかということは私も乗ったことがないので分からない。その辺りも考えることが必要ではないかと思う。

→（事務局　津田課長）

○　その辺を踏まえながら、事業を進めていきたい。

○　体験乗車については、子どもたちが乗るようなことを考えている。

○　自動運転は日本の最先端の技術となるので、学生にも紹介できるような機会も盛り込みたい。

（市老人クラブ連合会　下中委員）

○　尾小屋・大杉線でデマンド型乗合タクシーについて、利用する場合は前日までに連絡が必要となっている。

○　高齢者が多く若者が少ない地域であり、高齢者が利用する際は、親戚や隣近所にお願いをしている状況がある。

○　緊急な場合もある。せめて、当日の２，３時間前に予約する形にできないか。本人だけではなく、親戚や隣人にとっても便利になる形を考えていただきたい。

→（事務局　津田課長）

○　運行開始し半年が過ぎ、アンケート調査を実施した。集計中であるが、同様の意見も無いとは言えない。

○　もう少し今のやり方を継続し、交通事業者も交えて効率化できないか考えていきたい。

○　費用対効果も重要な要素なので、そのあたりも考慮しながら進めていきたい。

（北陸鉄道労働組合　植村委員）

○　自動運転バスの運行車両について、小型 EV と記載されているが、運行に合わせて新しい電気バスが導入されるのか、それとも既存のバスに自動運転システムを付けて運行するのか。

→（事務局　津田課長）

○　自動運転システムが組み込まれたバスなのか、それとも既存の EV バスにセンサ等を取り付けて自動運転化させるかという趣旨の質問と理解した。

○　導入を予定しているものは、既存の EV バスにセンサを取り付ける手法の後者の方となる。

○　先進事例である茨城県境町では、車両そのものが自動運転バスとして設計されたフランス製の車両を導入しているが、時速 19km、輸送人員も 10 人程度となり、本市の運行ルートでは対応できない。

（校下女性協議会　久保委員）

○　今回の協議事項や報告事項の路線ではないが、ある人から交通が不便との相談が届いている。

○　交通空白地域になるのか分からないが、その方と話し合いし、内容によっては今後相談させていただきたい。

４．その他

特になし